

3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 入江です。よろしくお願ひいたします。

一般質問に際しまして、12人の議員さんが退席されましたが、私は市民に選ばれた議員です。議員の責務を全うしたいと思っております。精いっぱい一般質問をしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

市長にお尋ねします。

1、豊玉診療所について。新病院計画発表の時点で市長は、「診療所については機能維持する」と明言しておられましたが、豊玉診療所の医師は4人体制で運営されていましたが、ことし8月23日をもって1人の医師が任期満了によって退職され、現在3人体制になりましたが、市長は今回退職された医師について、慰留、あるいは契約の更新について、どのように対応をされたのでしょうか。

また、1人の医師の確保に当たって、市長はどのような計画を持ってあるのでしょうか。

今、離島に対し医師不足の状態であるのに、今後医師の確保が、時間的にはどのくらい期間を考えてあるのでしょうか。また、来年の3月末には2人の医師が契約満了になりますが、市長はその対応をどのようにお考えでしょうか。御答弁を求めます。

市長の医療政策を問題視してきた私としても大変気になる豊玉診療所の異変です。これから崩壊に近い不安定な状況になりつつあるのが豊玉診療所です。市長は、対馬の医療向上のためにと新病院計画を推進されたのですが、市民の間からは、特に豊玉の方からですが、豊玉診療所は事実上の閉鎖に追い込まれるのではないかと危惧する声が多く出ています。

市長は、この豊玉診療所の実情について、どのように理解されていますか。また、どのように把握していますか、御答弁をお願いします。

第2に、いづはら病院、中対馬病院跡利用計画検討委員会について市長にお尋ねします。

いづはら病院、中対馬病院跡利用計画検討委員会の第3回目が7月17日に開催されたと聞いております。そのうちで市民の一番関心の高いいづはら病院跡地に64床の病院の運営を病院企業団で運営してもらえないかという要望内容となっておりますが、この質問に対し病院企業団はどのような御説明がありましたか、お答えください。

第3に、美津島町における保育士職員採用の件について市長にお尋ねします。

美津島町保育所の職員採用は、民営化の時期も近いのに、20年間採用がないにもかかわらず、今なぜ正規採用をされたのでしょうか。御答弁をお願いします。ちまたでは市長の親戚が正規採用されたとうわさが流れておりますが、そのことに対し市長はどう思われますか。御答弁をお願いいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 端的過ぎて大変難しい質問だなというふうに思って聞いておりましたが、1点目の豊玉診療所のことで、医師が4名から3名にこの9月1日からなりました。それは事実でございます。

ちまたでは閉鎖するのではないかという声が上がっているとおっしゃいましたが、私のほうには一切そのような声は聞こえてきていません。私が全くそのような考えがないからかもしれませんけども、そのよううわさが流布されないようにしっかり今残った3名のお医者様方で豊玉診療所についてはやっていたきたいなという思いであります。

豊玉診療所の経緯について説明をさせていただきたいと思います。

平成16年4月に開設をされております。当時は、お医者様が2名体制で診療を行っておりました。水崎出張診療というのもありました、当時。当時から医師は2年間の管理運営委任契約によって雇用を行ってございまして、長期的安定した医師確保とはならず、診療所運営においても長期的な医療提供体制の確保がなかなか難しい状況というのは、これは日本中一緒だと思いますが、同じであります。

この間、平成18年には医師1名が契約更新しませんでしたので、半年間1名体制というふうなときがありました。

募集を行い、同じ18年9月に新たに1名を採用し、2名体制に戻りましたが、平成22年度からは医師1名が体調不良等により月の2分の1勤務契約となり、ほかの医師も体調がすぐれず、休診が断続的に続き、診療の安定した運営ができない状況になったことから、この状況を打破するため、平成22年、求人募集を行い、2名のお医者様を雇い入れ、4名体制となった次第でございます。

4名となったことから、平成24年度からは下原診療所、さらに豆殿診療所、また、平成25年度から久根診療所へ出張診療を追加をし、というのは、それまでは対馬いづはら病院等へ委託契約をし出張診療をしていただいておりますけれども、4名体制になったことにより、この出張診療をみずから直営診療というふうな形をとって、豊玉診療所が中心となって地域医療の充実に努めているところであります。

今回、8月末までの契約としておりましたお医者様が契約更新しないことから、4名体制から3名体制となり、残りの医者の負担が増すことが推察されますが、適正な患者等の振り分けを行い、業務負担の分散を行うことで良質な医療が提供されると思われ、また、現在の豊玉診療所の診療体制、患者状況等を勘案しまして、当面3名体制で運営することと考えております。

本来、豊玉診療所は常勤医師2名で運営をし、中核病院から専門医、特に整形外科等の派遣で運営をする方針でしたので、現在常勤3名で、うち1名が整形外科等を専門とされるお医者様が勤務されており、出張診療にも支障がないようすし、現況としましては継続的かつ適正な医療

提供の確保はできるものと思われしますので、現段階では新たな医者への募集は行わない方針で臨みたいと思っております。

次に、2点目のことですが、対馬いづはら病院、中対馬病院跡利用計画の検討委員会というのを開催をさせていただいております。これは現段階においては3回開催がされております。

私は専ら最終的な答申を待っている状況でございますので、その時の会議の内容等について私は一切関与をしておりませんので、今おっしゃられた質問というのには大変答えにくいというか、答えることが不可能な話だなということで今の御質問を聞いておりましたので、どうかその分については無理です、お許しいただきたいと思っております。

3点目美津島町保育所における保育所職員採用の問題、正規採用の問題がありました。美津島ということで限定をしているものではなくて、対馬市全体としての保育士採用状況をまずもって説明をさせていただきたいと思っております。

平成16年度合併当初、対馬は21の保育所を運営し、必要保育士数が70名中正規職員が45名で、嘱託職員が25名でした。その後、行財政改革の一環で、正職員が退職した場合は不補充とし、保育士資格を持った嘱託職員を募集・採用し、人件費の削減というものに努めてまいりました。

それが、平成21年度には正規職員35名、嘱託職員35名と同数になったのですが、平成21年度末に4人、平成22年度末に3名の計7名の正規職員の定年退職を控えた状況で、その不足分を嘱託職員で補う必要がありました。

しかし、その当時、特に豊玉以北の保育所の保育士を募集をしても、地域に保育士資格を持った方が少なかったためか、募集しても応募がない状況が続きました。このままでは規定の職員数を充足できず、保育所の運営がままならない状況に陥る状態でございます。

このため、平成21年度、続いて平成22年度に採用試験を実施し、それぞれ2名と3名、計5名を採用いたしました。資格職の採用につきましては、定員適正化計画に基づいて平成18年度に保健師、看護師の採用試験を実施し、平成24年度までに資格職試験を7回行い、14名の資格職を採用をしております。

質問の最後あたりに「親戚が」という話がありましたけども、少なくとも採用試験の実施の方法というのを入江議員が御存じないんじゃないかと思っておりますので、ここで説明をさせていただきます。

採用試験につきましては、全て長崎県市町村行政振興協議会に委託をして、9月と1月に県下一斉に実施をしております。問題集についても、不正防止のため、試験当日の、それも試験開始直前にその長崎県市町村行政振興協議会職員より試験員の市職員が問題集をその直前に受領し、受験会場で受験者に配付をして、試験時間が終了したら、その問題集も回収し、回答用紙と一緒に

にその協議会職員へ手渡します。

協議会職員は、厳重に鍵つきのトランクに入れ、その日のうちに市町村行政振興協議会へ持ち帰り、採点のため東京の公務員試験センターに送付し、採点を行ってもらい、採点終了後、受験番号表示による得点一覧表が協議会に送付され、その後市に成績表が送付されてきて、得点上位者の数名が1次合格者となり、2次試験の論文、面接試験の受験者となります。

なお、この1次、2次については、可否の判定は副市長、教育長、総務部長、福祉保健部長らによって行われ、私は一切関与していない状況であります。

さらに、平成24年度の採用2次試験からは、論文等の評価、それから、面接官として、日本経営協会から専門官を派遣していただいて可否の判定を行っております。このような試験採用判定方法から、入江議員が心配されるようなことは不可能というふうに申し上げます。御理解いただきますようお願いを申し上げます。

以上でございます。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 豊玉診療所の件ですが、今、医師が1人おられなくなられて待ち時間が長くなった状態になっていますが、これはいつぐらいに1人を入れる予定、全然その3名でやっていけますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほど答弁で申しあげましたが、現段階では新たな医師の募集は行わない方針であります。私どもはそういう考え方で、今、豊玉診療所の3名のお医者様と出張診療所を含めての診療の方向性とか勤務とかという話し合いは済んだ段階において、現3名でやっていけるというふうなお話をいただいておりますので、3名のままで臨んでいく考え方でございます。

そして、先ほど説明申しあげましたが、最初2名で始まったこの診療所でございます。それが今現在3名になっているというふうな解釈をしていただければ大変助かります。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 8月23日をもってやめられた先生に対しては、慰留とかいうことは、市長はお考えにならなかったのでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 当然、慰留ということもしましたし、先生のほうも、自分のほうの家庭の都合もあります。それらのことも聞かせていただいて、私どもとしては致し方ない部分があるんだろうなと思って、最終的には断念をするというふうなことで、最後の送別会等にも私も出させてもらって、お別れをさせていただいたところであります。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 市長がみずからやめられる先生とお話をされました。慰留のお願いを。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 途中の経過については十分に承知しておりますし、私も、ことしはともかくとして、そのやめられた先生とは何度となく話し合いを持ったことがございますので、考え方というのは知っているつもりでございましたので、副市長のほうにその旨を伝えて、副市長のほうに二度三度となく慰留に、豊玉のほうに出向いて、その私の意を伝えていただいたところがあります。

○議員（3番 入江 有紀君） わかりました。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 来年また2名の先生が3月31日をもってやめられるのですが、それはどんなに市長はお考えですか。慰留をしていただく。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） やめられるのではなくて、契約になっているというだけでございまして、私どもは豊玉診療所の診療体制というのを、また、先ほど言いましたように、それ以外の出張診療所もあわせて担っていただいておりますので、現体制というのをそのまま続けていきたいという思いでおりますが、今の時点でどうするのかと言われても、個人に話をその後聞いておりませんので何とも言えませんが、総数としては3名体制でいきたいなというふうな思いは持っております。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 前、2名の先生のとときに1人の先生が病気になられたのは、やっぱり2名体制で何かえらい目に遭ってあるんです。それで、私たちが心配するのは、来年2人またもしやめられたときには1人の先生になってしまわれるので、これは大変だなと思いますので、ぜひ2人の先生を引きとめていただくようお願いいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 「はい」と言えば、それでよろしいでしょうか。いえ、そのつもりでございまして。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 2番目をお願いしましたいづはら病院、中対馬病院跡利用検討委員会の3回目の7月17日開催された分について、福祉保健部長が一応参加してありますので、このことを、市民の一番関心の高いいづはら病院跡の64床の病院の運営を病院企業団で運営し

てもらえないだろうかという要望に対しての返事を一応企業団がどんなに言われたか、御返答をお願いします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほど言いましたように……

○議員（3番 入江 有紀君） いえ、だから市長じゃなくて、福祉保健部長から。

○市長（財部 能成君） では、その分については、そこに参加しておりました福祉保健部長のほうにお答えさせます。

○議長（作元 義文君） 福祉保健部長、多田満國君。

○福祉保健部長（多田 満國君） 福祉保健部長の多田でございます。

3回目の検討委員会は7月の17日に行われました。その中で……

○議員（3番 入江 有紀君） もうちょっと大きい……

○福祉保健部長（多田 満國君） そうですか。

検討委員会の会議録を作成をしております、このような議会の議事録は一言一句記録がされるということになっておりますけども、要点筆記というふうな中でやってきております。

そういった中で、市のホームページのほうにもアップをされているかと思っておりますけども、手元に、ここに会議録を持ってきておりますが、会議録、ホームページで公表をしているとおりでございます。

いずれにいたしましても、会議録につきましては、作成をいたしました後、発言された委員さん方に作成したもの、要約したものを配付いたしまして、確認をいただいってもらって、訂正等、修正、ここはこうよとかああよというようなお話がございましたら、そこらあたりを点検をいたしましてアップをするというふうな形になっております。

そういった中で、どういったことがあったのか、ホームページに会議録で公表をしているとおりでございます。

以上です。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 7月17日の第3回目の委員会で、「会議録の差し替えがあるが、失落のないよう気をつけてほしい」という意見が出ているんです。それがページ2ページ目の下から5行目です。

だから、今度の場合もかいつまんでということをお阿比留さんが言われたんですけど、担当の方が、何回も私読んでお聞きしたんですけど、「かいつまんで書いているんですよ」と言うんです。

かいつまむのはいいんですけど、内容が変えられているんです。だから、そういうことをしないでくださいということがこの前の委員会でも出ているんです。ここの、「委員会で会議録の差

し替えがあったが、欠落のないようにしてください」ということの見が出ています。だから、恐らく前の会議録もこれがあったんじゃないかと思うんですけども、今度もあったんです。

だから、病院企業団が言ったことが書いてないんです、これに。

○議長（作元 義文君） 福祉保健部長、多田満國君。

○福祉保健部長（多田 満國君） そういうことも、今、議員が言われる分なんですけど、会議録を公表する、ホームページにアップする段階で、委員に確認を求めて、そのときに、ここの分は私はこうやったでしょ、ああやったでしょうということで3回目の検討委員会があった後、1回目、2回目、3回目の分をホームページにアップしたと。

そういうことで、いずれにしてもおっしゃった委員さんの意見は確認をしながら、要約筆記したものをアップしておりますので、改ざんとか、そこらあたりの分には当たらないというように考えております。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 先ほど言われたんですけど、私の質問に対して病院企業団が言われたのは、言いますけど、確かめたんですけど、私は、3人に、傍聴に行っている方に、家まで行ってから全部確かめてきたんですけど、市民の方が「病院企業団で64床やってもらえないだろうか」という質問に対して企業団が言われたのは、「中対馬病院といつはら病院を合併して新病院にするんです」と、だから、「それを新病院にして、いつはら病院跡を残せば新病院がやってもいけない」と、だから、「いつはら病院を残すということは、企業団としてはやる意思は全然ありません」ということなんです。

それで、だから、あとのことは、やる意思がないと言ってあるのに、どういうふうにして市長はこれを64床を残すと言われてたかということを質問したいんですけど。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） よくわかりました。私は、病院企業団に、いつはら病院の跡をお願いすると言ったことは一度たりともありません。

病院企業団以外の法人で物事を組み立てていきたいと思います、当然2つの病院を1つにしたい病院企業団、それがいつはら病院のほうをするという話には全くなりませんので、私は、そのようなことは一度たりとも言ったことはありませんので、病院企業団は「やる気はありません」と言うのは当然だと思います。

2つの病院を1つにするのが向こうの考え方ですので、そのいつはら病院を残される、いつはら病院をするという話にはならないんじゃないかと、今話を聞いていて思いました。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 病院企業団にしてもらえないだろうかという委員の方の質問があ

ったんです、そのとき。そのとき質問があったのに対して、病院企業団はどんなに答えたんですかと聞いたら、保健部長は返答が返ってきませんでした、全然。

だから、傍聴に行った人が聞いているんです。だから、それはできないということを行っているわけです。病院企業団が経営することは無理なんです、それはわかっている。（発言する者あり）いや、言ってないことはわかっています。でも、委員の方が質問をされているんです。それに対してどんなに企業団は答えられたんですかという私は質問をしたんです。

○議長（作元 義文君） 福祉保健部長、多田満國君。

○福祉保健部長（多田 満國君） そういうことで、会議録を作成する中で、今、病院企業団というお話がございましたけども、病院企業団のほうにも「こういったことでよろしいですかね、発言の趣旨はこうでしょうか」ということを確認した上で、ホームページのほうにそれぞれの皆さん委員からのいろんな、こうだあだというようなものがあるかもしれませんが、そこらは確認した後にアップしておりますので、本人さん、委員さんたちの責任のもとにこれはアップしておりますので、そのところは誤解のないようお願いしたいと思います。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 市長は、いつはら病院跡に、自分たちで、市かなんかで病院を持ってくるといふような言い方をされているんですが、病床数にしても足りないと思うし、そして、ハードルが高いと思うんです、これは。恐らく市ではやっていけないんじゃないかと思うんですが、どんなに考えてありますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 市で経営するという事は毛頭考えておりません。その考えは最初から持ち合わせておりませんし、ほかの法人等をお願いをしていくということで物事は、あの3月18日でしたか、発表をさせていただいた段階からそのことは言い続けておるところであります。

基準病床のお話がありました。これにつきましては、基準病床の考え方でいつも言っておりますけども、離島振興法、または医療法に載っております山間離島における病床の確保という分野において、県の医療計画の病床数の算定基礎の中にその項目が入っていないということを私どもは確認をしております。

それで、今、県のほうに対して、私のほうからもその算定の根拠をきちんと法に基づいた算定にしてくださいというふうな要望はまず出しております。

また、このことについては、県の市長会のほうにも提起をし、当然過疎地、離島の市長さんたちもいらっしゃいますので、それらの問題について県のほうをただしていくということで要望書も上げるように決定をし、私どものほうに市長会事務局のほうからも問い合わせがあつて、文言をつくり込んでおる最中でございます。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） それともう一つお尋ねしたいんですが、跡利用検討委員会のメンバーなんですけど、大きい巖原町にたった1人の跡利用検討委員会のメンバーが、19人のうち1人しか入っていないんです。何を笑ってあるかわかりませんが、市長。19人のうちに1人しか入っていないんです。

だから、南部市民、巖原から南部の人たちは意見を言いたいはずなんです。病院がなくなれば、雞知まで、豆殿から、雞知までこんといけんから、南部市民の意見も言わせてほしかったんですけど、それはできないものですか。今から19人で、ふやすわけにはいかないんですか。南部市民がどれだけ泣いてあるかということを考えてください。そして、南部市民の意見も吸い上げてもらいたいんです。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） どこの地区の市民とかいう考え方ではなくて、本当に対馬の医療というものを考えていく視点に立って、専門の方等も入ってこの物事を組み立てておりますし、たしか区長会長さんも入っていただいて、これには論議をしていただいていると思っております。

今お話がありました巖原には、巖原地区区長会、久田地区区長会、豆殿地区区長会、それから、佐須地区区長会というそれぞれの区長会という組織がございますけども、そちらのほうから連名で、巖原地区における一定規模の医療施設の確保ということに向けてお願いをしたいというふうな要望書が、8月21日だったと思いますが、私のほうにも届けられましたけども、あわせて県知事並びに病院企業団の企業長に対しても出されているというふう聞いております。

日にちは定かではありませんけども、それぐらいのときだったと思いますが、みなさんの思いというのは、私自身もしっかり感じて思っておりますし、前回もそうでしたが、巖原地区に一定規模の入院機能を有した病院を残すために自分は今、県のほうともさまざまな部分で戦い挑んでおるというふうに思いますし、議員の皆様のお力をおかりして巖原地区に残していきたいと考えておりますので、よろしく御理解をいただければと思います。

○議長（作元 義文君） 福祉保健部長、多田満國君。

○福祉保健部長（多田 満國君） 済みません。私、検討委員会の委員長代理という立場もございまして、実は、7月の17日のときにそういった意見が、4月に区長等の改選がありましたものですから、増員とか何かすることはないのでしようかというような委員さんからのお尋ねでございましたけども。

検討委員会も3回目ということで、委員会の総体として、住民の代表を各町から1名ずつ、公募の方も2名合わせていろんな関係機関、行政機関等を含めまして19名でやっているということで、これは、このままでやっていきますということで、私の委員長代理としての職務の中で、

委員会の中でそのような形でいきたいと思います、増員はいたしませんということで確認をいたしております。

以上です。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 検討委員会のテープなんですけど、これに書いてあるように、かいつまんで書くというのもいいんですけど、そのかいつまむのが、大事なところを外してかいつまんであるんです。だから、こういうことを前のどなたか委員の方が言っているんですけど、「差し替えがあった」と書いてあるんです、会議録に。それで、「欠落のないようにかいつまんで書いてください」と書いてあるんです。

それで、今度の場合もこれは「かいつまんで書きました」と阿比留さんが言われましたけど何度も、かいつまんで書いたら、ちゃんとその内容、64床のことをここの中に入れてかいつまんで書いてもらいたいです。「かいつまむ」という意味がわかってないみたいな感じで。

○議長（作元 義文君） 福祉保健部長、多田満國君。

○福祉保健部長（多田 満國君） 議事録、会議録、いずれにしても公表をするということで、3回目の中でお話をさせていただきました。そういうことでホームページにアップしているという。

繰り返しになりますけども、そういった面で、私どもの事務方のほうも責任を持って公表をするということになりますと、それぞれ委員さん方に「こういった趣旨でよろしいですか」ということの確認をとってアップしておりますので、そこらは委員さんがこうだあだという部分については、当然委員さんの趣旨を尊重しながらホームページ、会議録のアップをしているというふうに考えておりますので。

特に言われるようなことは、改ざんとか、いろんなこと、差し替えとかというようなお話がございましたけども、そういうのを含めて、事務局としては責任を持ってやって対応をしているというふうに御理解いただきたいと思っております。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） そしたら、一応病院企業団の意見としては、「対馬市がやるにしてもハードルが高いですよ」と言っているんですけど、市長が市長になられたときのこれには、「必ずやりますよ」と書いてあるんです。このビラには、だから、南部市民から巖原市民はこれを信じてあなたを市長になってもらったんです。本当につくってもらえると思って。

でも、今の状態ではこれは、市長がつくれますよとずっと言っているけど、ほとんどこれは私無理だと思うんですけど、それはしてもらえば、南部市民は喜ぶし、今、きのうも相談に来られたのが、透析をしてある方で、一応浅藻から行ってあるんですけど、その方でも、「入江先生、

これはどうしたらいいですか。私たちは3日に1回行かんといかんが、雞知までどうして行くんですから、浅藻から」。

だから、できるだけ頑張って、ここの64床を残していただいて、透析だけでもちゃんと残してあげるようにしてもらいたいですけど、本当、泣くように言われました。「透析に3日に1回、どうして行きますか、雞知まで」っていうことで、だから、それができるような病院を本当に、病床数としては少ないでもいいですから残してもらいたいと思うんですけど。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 現在の対馬いづはら病院の中に透析のベッドが、別棟でたしか20数ベッドあります。私、その場所も見に行つて、確認もしております。新たに増築された部分だと思いますし、設備も新しいものでございます。それらに、その機械に頼らざるを得ない方々が年々ふえているという状況も十分に私自身は把握しているつもりです。

そういう中、新たなところにはたしか30ベッドぐらい透析は予定をされていると思いますけども、今後の透析患者の伸びとかいうことを考えますと、不足を来すんではないかなという思いも当然ありまして、現在のベッド、20数ベッド全てが残るとは当然今この時点では言えませんが、法人との方向性が委員会で出た後、これだけが厳原に欲しい。

そして、仮に介護とか特養とかいうそういう施設との併用型は、こういう形がいいよということの答申を受けましたら、私はそれに向かっていきますし、今おっしゃられたように透析の問題ということもわかった上ですので、それらも考えて、その医療施設というものの施設を組み立てていきたいと思っています。

ハードルが高い、確かに高うございます。高いからやらざるを得ん。高いから市民もあきらめたらいいんと思います。私も一生懸命それにはぶち当たっていく考えで今県と戦っていると、先ほど申し上げましたように、市民の皆様の医療、命を守るために今一生懸命動いているということを御理解いただきたいと思います。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 時間がありませんので長々言いませんけど、今、厳原町の個人病院が物すごくふえているんです、患者さんが。ということは、新しい病院ができたところで、個人病院のほうが近いからということで、個人病院が本当にいっぱい殺到しているんです。だから、そうなれば新しい病院の患者が減ると思うんですけど、それはどんなに考えられますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 新しい病院の経営のことにしましては、当然頭の中には入れてはおりますが、まずもって厳原地域の方々がなれ親しんだ医療施設を一定規模で守るということを私は今使命だと思っています。

○議員（3番 入江 有紀君） 時間がありませんので。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 市長にお願いします。このチラシを選挙前にまかれたことをみなさんは信じていますので、南部市民は、一生懸命頑張ってやってください。お願いいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 前回も言わせていただきましたが、それぞれこの世界にお互い思いがあって手を挙げてくるわけですが、入江議員さんも一定の公約をされてなられているはずですし、僕もそれを出して当然公約の中の一つとして掲げております。

そのことを成就するために自分はなつたつもりでおりますので、巖原地域の方が中心になろうかと思いますが、その思いというのを決して裏切ることのないようにこれからそこに向かってこれからも走りたいというふうに思います。

○議長（作元 義文君） 3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 今言われたように、政治の公約と言われたんですけど、政治の公約は公約ですけど、この病院問題については物すごい大事な問題なんです。巖原南部から、巖原市民はとにかく、本当、だから、この病院を残してくれるからということで選挙に入れていますので、絶対頑張って残していただくようにお願いします。

以上です。ありがとうございました。

○議長（作元 義文君） 終わりますか。

○議員（3番 入江 有紀君） はい。

○議長（作元 義文君） これで、入江有紀君の質問は終わりました。

.....
○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。

午後3時19分休憩

.....
午後3時34分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

あらかじめ申し上げます。本日の会議は議事の都合によって時間を延長します。

それでは、次に1番、春田新一君。

○議員（1番 春田 新一君） 皆さん、こんにちは。新政会、1番議員の春田新一でございます。

市議会議員一般選挙が済み、はや4カ月を過ぎようとしております。市民の皆さんのお力添えでこの場に立たせていただいております。この場をかりて厚くお礼を申し上げます。

また、本日は先輩議員の了解のもと、初めての一般質問をさせていただきます。少し緊張ごみ